

荒井勝喜元首相秘書官のオフレコ取材での差別発言を実名で報じたことは、読者の知る権利にかなうものであり、正しい判断だったと思う。荒井氏は岸田文雄首相のスピーチライターで、政府の中核を担う人物。取材場所は首相官邸で、ほぼ毎日行われていた取材ということから、公的な記者会見に準ずる場であり、報じるべき条件が十分にそろっていたと言える。

記者の役割は、知る権利の代行者として事実をより早く深く知り、読者に知らせることだ。オフレコ取材は、実名で報じないことが取材先との約束事だとしても、報じるべき公益性が高いと判断をした場合、そちらが優先され、社会的な役割を果たすことができる。オフレコ取材は取材先との信義に基づくものだ。報じることで信頼関係が壊れるかもしれない。ただし、取材先より読者との信頼関係の方が大切だという立場に記者や報道界は立つべきだ。今回は荒井氏に報道前に通告をしているので、問題は無いというのが私の見解だ。

## 取材先より読者の信頼大切

山田健太・専修大教授(言論法)



オフレコ取材は、正当な取材方法の一つだ。日本では情報公開制度の法律や運用が不十分で、誰もが知るべき公的な情報すら出てこないことが多く、政治家や警察が情報を一手に握って隠される傾向が強い。ジャーナリズムの活動が他国に比べても一層重要だ。報道機関がさまざまな手法を使って、隠されている情報を引き出し、オフレコ取材は必要だと読者に理解してもらうことが大事だ。オフレコ取材が当然ということではなく、多過ぎると指摘されていることについては、真摯に反省すべきであり、できる限り情報源を明示することは重要だ。

【聞き手・仙石恭】

# オフレコ取材のあり方

LGBTQなどの性的少数者や同性婚に関する差別発言で荒井勝喜元首相秘書官が更迭された問題によって、オフレコ取材のあり方に世論の関心が集まっている。今回、毎日新聞が実名で報じた経緯を改めて説明し、オフレコの功罪を読者とともに考えたい。

## 検証

雄首相が1日の衆院予算委員会で同性婚の法制化について「社会が変わってしまう課題だ」と発言して...

# も

## 韓国国防白書 「北朝鮮は敵」

6年ぶり表現

韓国国防省は16日、国防政策の概要をまとめた2022年版の「国防白書」を発売した。22年5月に発足した尹錫悦政権では初。「北朝鮮の政権と北朝鮮軍は我々の敵だ」と記述。核・ミサイル開発を加速化させる北朝鮮に対し、米韓同盟を強化することで対抗する尹政権の方針が反映された。

国防白書は2年に1度発行。北朝鮮を「敵」とする表現が復活したのは、尹政権と同じ保守系の朴槿恵政権下の16年版以来6年ぶり。進歩系で北朝鮮との対話を推進した文在寅政権下の18、20年版では削除されていた。【ソウル 洪江千書】

日本人初、仏料理界最高称号を受章

## 関谷 健一郎さん(43)

# ひと

2010年に修業先のフランスから帰国し、21年都内の「ジョエル・ロフション」総料理長。



仏文化の最も優れた継承者としてふさわしい高度な技術を持つ職人が選ばれる「フランス国家最優秀職人章」(MOF)。2022年11月、日本人として初めて料理部門で受章することが発表され、勤務先のホームペー上でコメントした。「ここまで支えてくださった皆様、外国人である私を仏文化のいち担い手として認めてくださったフランスの方々にも、心なします。千葉県の出身。専業しホテルで経験を22歳で渡仏した。「神様」と呼ばれた故郷のロフション氏に師事。同氏のレストランで抜てきされた。10年東京・六本木、次に重「ブション」のレストラン

### レコ発言 ※肩書は当時

村山富市首相から「**厳重注意**。国会が混乱した責任を理由に辞任

小泉純一郎首相は「**非核三原則は変わらない**。野党の罷免要求を拒否

河村氏から「**厳重注意**」

引責辞任

停職処分

て国民の知ることになる。しかし、懸念を表明し、改めて取材対かりでは、なれ合いのこぞ知る権しませう。近よるメディアでいる。あ